

教科	理科	科目	地学基礎			単位数	2
学科	普通科	履修学年	2 学年	コース		必修・選択	必修
教科書	新編地学基礎 (数研出版)						
副教材等	ニューステージ 新地学図表 (浜島書店) ベストフィット 地学基礎 (実教出版)						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽系の中の、ひとつの天体として地球をとらえ、その構成している物質や活動を広い視点でとらえる。 ・地球の歴史を生物界の変遷と関連付けながら理解を深めるとともに、過去を推定する手がかりや手法について理解を深める。 ・地球大気や海洋の現象とそれを引き起こす事象について、人間の生活に及ぼす影響と関連付けて考える。 ・広大な宇宙の広がりとはさまざまな天体の性質とその探究方法について、理解を深める。
------	--

指導の重点	<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象を空間的及び時間的事象として捉えられるようにする。 ・実習をとおして、科学的考察推論の手法、正しい自然観を身につけさせる。
-------	---

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (20)	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 第2章 プレートの運動 第3章 地震と地殻変動 第4章 火山	<ul style="list-style-type: none"> ・地球の形の特徴や大きさについて理解する。 ・地球内部に層構造があり、その状態や構成物質が異なることを理解する。 ・震源・火山が特定の地域に分布していることを、プレートの運動と関連付けて理解する。 ・火成岩の色調の違いについて整理されていることを理解する。 	中間考査 期末考査 実習観察
2 学期 (24)	第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 第2章 古生物の変遷と地球環境 第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 第2章 大気と海水の運動	<ul style="list-style-type: none"> ・地層や岩石の観察、実験から地層が形成される仕組みを理解する。 ・地質構造や不整合が過去の地殻変動を推定する手掛かりとなることを理解する。 ・地球環境の移り変わりと古生物の変遷を関連付けて整理・理解する。 ・大気の構造と地球全体の熱収支について整理し、地球規模で熱が輸送されていることを理解する。 	中間考査 期末考査 実習観察 実習プリント	

	3 学期 (20)	第 4 編 地球の環境 第 1 章 地球環境の科学 第 2 章 日本の自然環境 序編 惑星としての地球 第 1 章 太陽系の天体 第 2 章 太陽系の誕生と地球の進化 第 5 編 宇宙の構成 第 1 章 太陽と恒星 第 2 章 宇宙の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模の自然環境の変化を科学的に理解する。 ・日本の自然環境が、人間生活と深くかかわっていることを理解する。 ・太陽系の誕生、太陽の表面の現象および地球の特徴を理解する。 ・太陽系→天の川銀河→銀河団→超銀河団という階層の中でそれぞれの構造を理解する。 ・宇宙の始まりからの時間の中で水素やヘリウムの原子核がつけられたことを理解する。 	学年末考査 実習観察
計 6 4 時間 (5 5 分授業)				
評価規準と評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	地球科学全般に関して事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求すると共に、科学的に探求する態度を身につけている。	事物・現象に疑問を持ち、観察・実験を通じての実証的探求、論理的考察、分析的判断を行い総合することで、疑問の解明を図り、事実に基づいた科学的判断を下し、的確に表現することができる。	観察・実験の技能を習得すると共に、それらを科学的に探求する方法を身につけている。	地球科学全般に関して、事物や現象に顕れる原理・原則、それを理解するための基本的な概念を理解し、基礎となる知識を身につけている。
	[評価方法] 1 定期考査の成績 2 実習プリント、製作物 3 授業中の状況や実験・実習の取り組み方などから、総合的に評価する。			
学習のポイント	1 作業実習には丁寧に取り組み、課題を探求し結論が導けるようにする。 2 大きな空間及び時間を対象とする（特に天文分野）ために、日頃、星や気象現象、地層化石などに興味を持ち、自然現象全般に疑問を持って授業に臨む。 3 作業実習では三角定規、30 cm定規、コンパス、色鉛筆などが必要な場合がある。 4 地球科学は時間・空間を把握することが大切である。広い視野に立ち地球を考察して欲しい。			